

ひきみとつながる。
UIターン情報誌2015.11月

おかえり



M. YOSHIOKA
2015

「自分はサラリーマンより経営者向き」。そう言っただけからではない。吉岡健次郎さん(72)は、結婚と同時に30歳で起業。1年の大半を出張で飛び回り、プラント全体の電気制御を一手に引き受ける仕事をしていました。妻アツ子さん(67)のご両親の介護のため、平成21年に益田市匹見町澄川へ移住しました。

じつとしていられない性分の吉岡さんは、所有する山のスギを有効活用できればとログハウス作りを夢見たものの、断念。その後、偶然山口の長門峡で見かけたチェンソーアート(原木をチェンソーで削ってできた作品)に挑戦しましたが、細かな部分の細工が難しく、これまた断念。偶然丸太の中央をくり抜いてみると花台にぴったり。アツ子さんの助言をもらいながら、様々な形の花台や靴置き、玄関の足踏み台、樹皮のコースターなど、実用的な作品を次々と生み出していきました。

何も予定が無ければ18時に寝て2時には起きるという生活。目が覚めると作品作りや地域づくりのことで頭がいっぱいです。

草刈りや地域行事、アツ子さん



わさび田へ



自宅納屋を改装し「FONY 能登店」を開店

とわさび生産をする以外は、作品作りで没頭しています。澄川へ移住して6年。良き仲間にもまれ、家族ぐるみで地域づくりに関わっています。「匹見で稼げる仕組みを作り、将来的には若い人たちに託してあげたらと考えています」。そう、吉岡さんは熱く語ってくださいました。



良き仲間にもまれ
地域づくりに
取り組んでいます

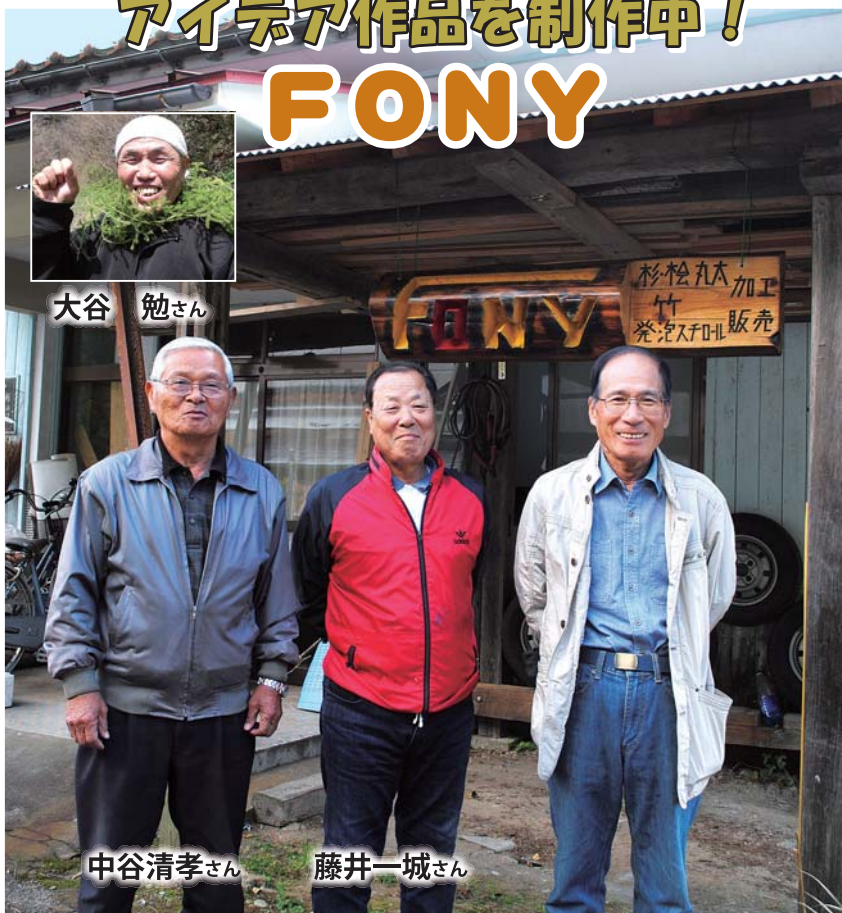
■吉岡健次郎さん

島根県浜田市出身。電気保守の会社などを経て、結婚と同時に30歳で起業。プラント全体の電気制御を一手に引き受ける仕事に携わった。平成21年に匹見町へ移住。

吉岡健次郎さん

アツ子さん

アイデア作品を制作中! FONY



大谷 勉さん

中谷清孝さん

藤井一城さん

「FONY」。メンバーの藤井一城さん(72)、大谷勉さん(故人、享年71)、中谷清孝さん(71)、吉岡さん4名のイニシャルを採って、「フォニー」と呼びます。

同じ地域に暮らし、年齢が近く、都会で暮らした経験があるなど、共通点が多いことから意気投合。「何か地域が元気になることをしよう」と、平成25年1月に結成し

ました。

様々な試行錯誤を経て、吉岡さんは花台や靴置きなど丸太の加工品とキリ製の下駄ストラップ、中谷さんは発泡スチロールを加工して作った植木鉢、藤井さんは竹細工のカエルを制作。27年4月には、藤井さん宅をFONYの「本店」に、吉岡さん宅の納屋を自分で改装し「能登店」とし、それぞれ開店。



靴置き。玄関がスッキリ、おしゃれに



下駄ストラップ



竹細工のカエル



発泡スチロールを加工した植木鉢

「能登店」では作品の展示を行い、いつでもお客さんに入ってもらえるようにしています。

斬新なアイデアや精巧な作り、暮らしを彩るインテリアとしての評判が口コミで広がり、「買いたい！」という声が増えていくとのこと。28年春から本格的に販売するべく、作品の種類や数を増やしています。

そばの栽培も始めました

秋晴れの空の下、そばの収穫作業に励む吉岡さんと同じ地区に住む寺戸倉雄さん(64)。

地域活動で知り合ったのが縁で、数年前からそば打ちに取り組んでいます。「自分たちでそばも栽培しよう!」ということになり、寺戸さん所有の圃場50aで、平成27年8月末からそばの栽培をスタートさせました。

「吉岡さんは、引っ張ってくれている存在です。これまで誰も取り組まなかった事に一緒に取り組ませてもらっています」と寺戸さんは話します。

「来年は更に栽培面積を3倍に増やしたい」と2人は意気込んでいます。



寺戸倉雄さん



～交流から滞在、そして定住へ～

ちょこっと匹見を体験したい方は…

◇**農家民泊**…匹見町には、3軒の農家民泊があります。



みよし
民泊「三四四」

《体験内容》
ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、
山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など
■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町道川イ214
Tel/Fax. 0856-58-0020



うつだに
農家民泊「内谷とちの郷」

《体験内容》
わさびの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体
験（こんにやく、わさびの醤油漬けなど）、もち
つきなど
■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町石谷口561
Tel/Fax. 0856-56-0589



なごうばら
農家民泊「長尾原のへや」

《体験内容》
農作業体験（稲刈り、牛の世話など）、苔玉作
り、農産加工品作り（漬け物、こんにやく、
ようかん、ジャムなど）
■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町澄川イ789
Tel/Fax. 0856-56-0471

◇**田舎体験・ボランティア**

【田舎体験】

匹見町では登山や雪山歩きなど、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

《使用料》

平成27年11月現在

施設区分	戸数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(0)	8,100円
世帯用(3DK)	2(0)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。
(空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



匹見への定住をお考えの方は…

◇**就業支援**

益田市外から移住し、農林水産業へ就業することを目的として産業体験を行う人に、「益田市農林水産業就業支援助成金」制度による支援策で、就業と定住を支援しています。

◇**住まい**

空き家や公営住宅をご紹介します。

////// **空き家に関する各種事業** //////

空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の2分の1以内(上限50万円)を①空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)、または②UIターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限りません。

※この他にも、空き家や住宅に関する補助制度があります。

◎ **定住・UIターンに関する問い合わせ先**
益田市匹見総合支所 地域づくり推進課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0305 FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/>